



**Go Abroad
To Scale !**

個別プログラム資料

LAUNCH UK

by Imperial College London

Ver1.0

LAUNCH UKプログラム概要	P3
プログラム構成・内容	P5
スケジュール	P10
運営体制	P13
応募要件・審査基準	P17
FAQ	P21

About LAUNCH UK Program

LAUNCH UKプログラム概要

プログラムの目的

日本の研究者・起業家7名を対象に、英国・欧州における技術商業化の実践知や市場機会、規制環境に触れながら、グローバル市場展開に直結する事業化力を構築する

1

対象



- 博士後期課程／博士研究員／大学教員／大学発スタートアップの創業者・CXO
- 技術の商業化を検討している
- 技術がPoC段階に到達
- 現地の全セッションに参加できる
- （法人の場合）エクイティ調達未実施

2

提供価値



- UK/EU市場機会と規制環境を前提とした商業化視点の獲得
- White Cityのエコシステムへの接続・実装側視点の習得
- ICL独自の**バイズ型アントレプレナーシップ**による検証推進

3

形式



- ロンドン／White City に3週間滞在
- 対象領域：Physical AI及びClimate Tech特化
- 参加者：7名（予定）
- 成果物：GTMロードマップ／初期TEA・コストモデル／資金調達準備度／ピッチ等

About Program Structure

プログラム構成・内容

In-person(London / White City | 3 Weeks)

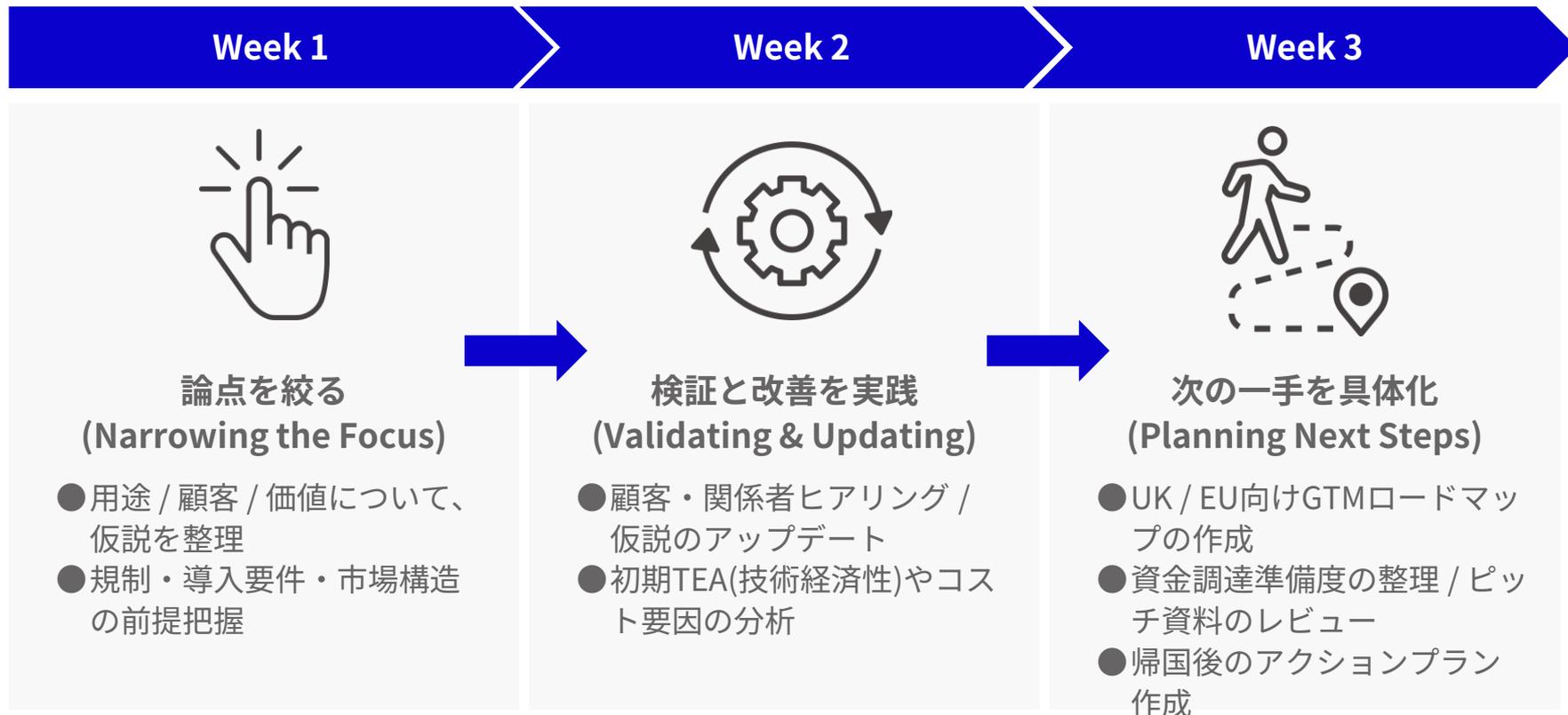


- 集中ワークショップ(商業化の基礎～実装・検証)
- 現地の企業 / 投資家 / 支援プログラムとの接点創出
- 個別相談(メンタリング / レビュー)

(Optional) Post



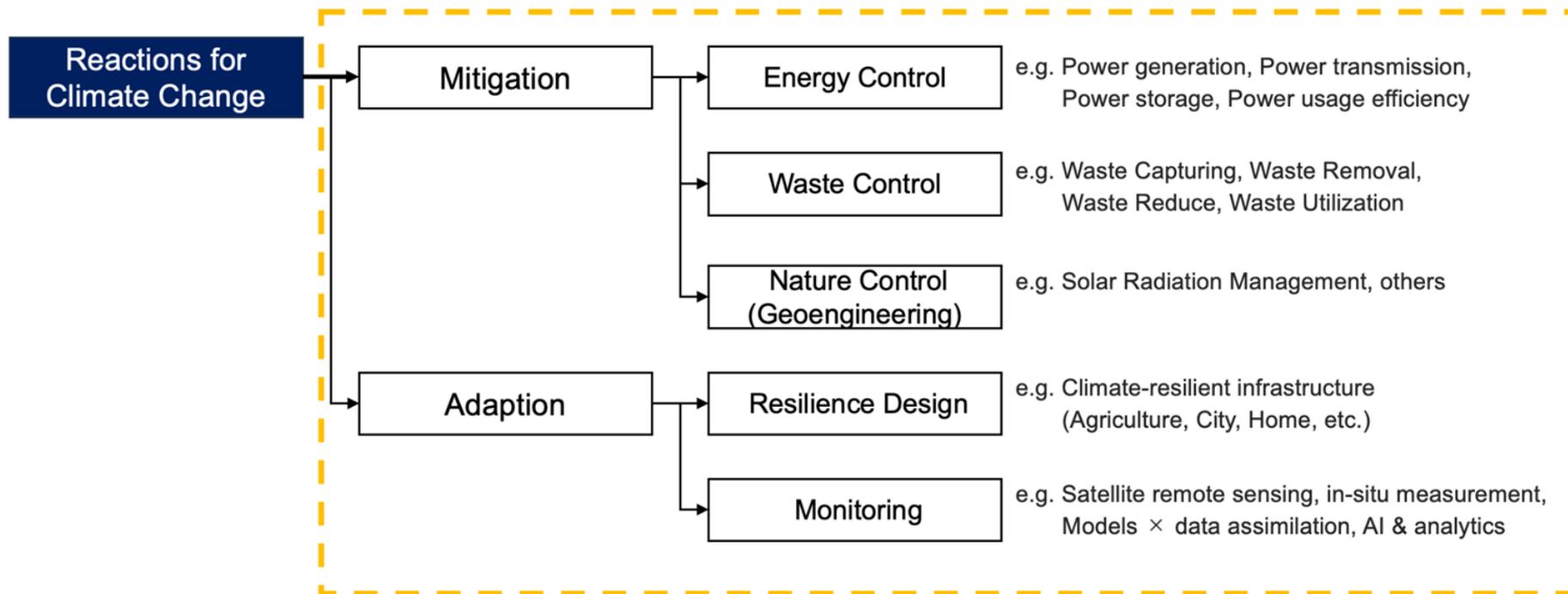
- (希望者のみ)
事後：帰国後のフォローアップ



補足：Climate Techが示す領域について

Climate Techとは、気候変動の緩和（Mitigation）と適応（Adaption）を目的とする技術と定義します。気候変動の要因となる排出物の削減に寄与する技術や、自然環境の制御および適用を促す技術、気候変動をモニタリング、分析する技術も対象としています。

Climate Tech



ベイズ型アントレプレナーシップとは、起業家が不確実な状況下での意思決定プロセスにおいて、ベイズ統計学の考え方を応用することを指します。つまり、起業家を科学者になぞらえ、経験や新たな情報に基づいて信念や予測を継続的に更新していくモデルです。

ベイズ型アントレプレナーシップ



Thomas Bayes (トーマス・ベイズ)

概要

従来のアントレプレナーシップは、リスクを恐れずに大胆な行動をとる「ヒーロー的な起業家像」に焦点を当てることが多かったのに対し、ベイズ型アントレプレナーシップは、より体系的・合理的な意思決定プロセスを重視します。

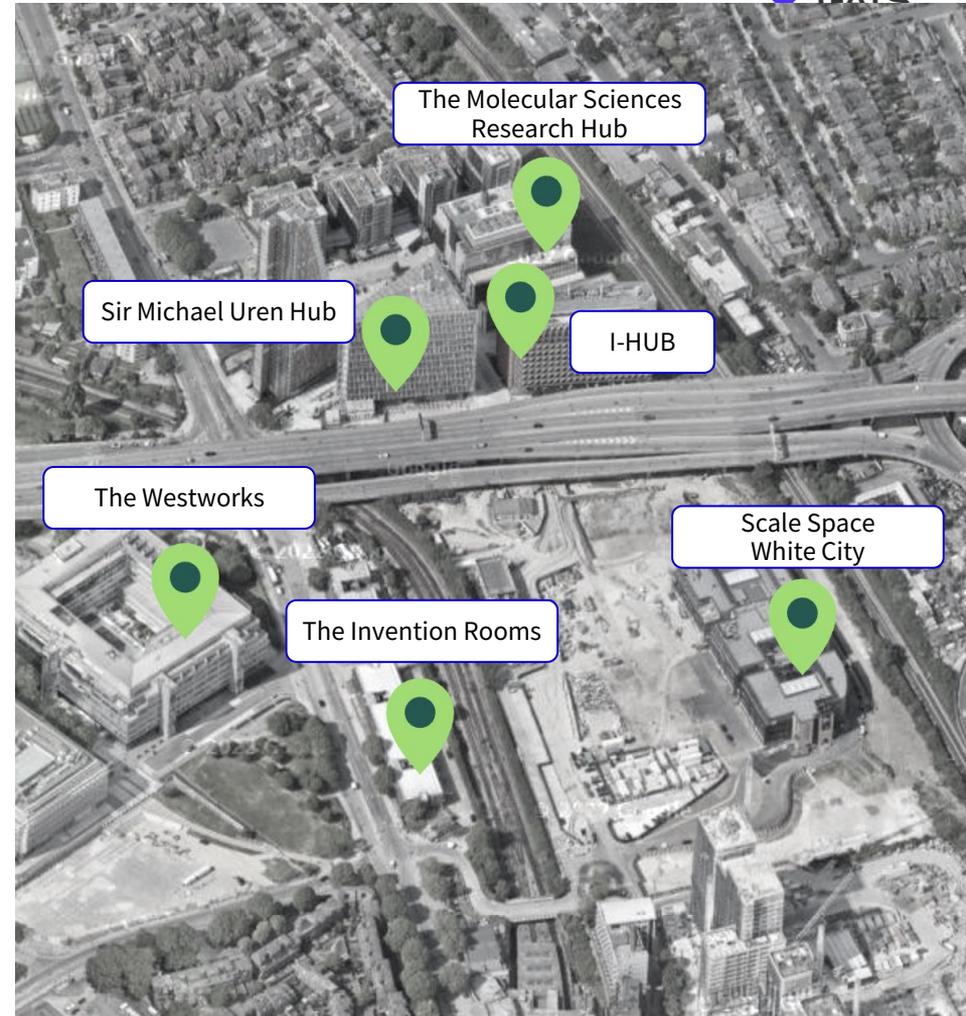
主な特徴

- **事前知識の活用:** 起業家は、市場や技術に関する既存の知識や経験を信念(「事前確率」)として持っていると考えられます。
- **情報収集と学習:** 新たなデータや市場からのフィードバックを積極的に収集します。これは実験と見なされます。
- **信念の更新 (ベイズ更新):** 収集した新しい情報に基づき、ベイズの定理を用いて事前の信念を「事後確率」へと更新します。これにより、不確実性を減らし、より正確な判断を下せるようになります。
- **継続的な改善:** この学習と更新のプロセスは継続的に行われ、事業戦略や製品開発の方向性を柔軟に調整していきます。これはリーンスタートアップ (Lean Startup) のアプローチとも関連が深いです。

White Cityは、
大学・スタートアップ・支援機関
が近接するイノベーション拠点。

研究室では得られない実装側の
視点を、3週間で習得する。

- UK / EUの規制や導入要件を踏まえた市場の見立て
- 現地ネットワーク（起業支援プログラム / 企業 / 投資家）への接続
- 研究→社会実装への翻訳に必要な視点の獲得



活動報告書



プログラム内での学び・
検証の記録

GTM戦略 ロードマップ



UK / EU市場向け
ブラッシュアップ版

初期TEA / コストモデル



経済合理性を踏まえ
た
定量的評価モデル

資金調達 準備度評価



事業成長に必要な
論点の整理

ピッチデッキ



アドバイザーによる
レビュー済みの
投資家向けピッチ資
料

About Program Structure

プログラム構成・内容

◆年間運用スケジュール

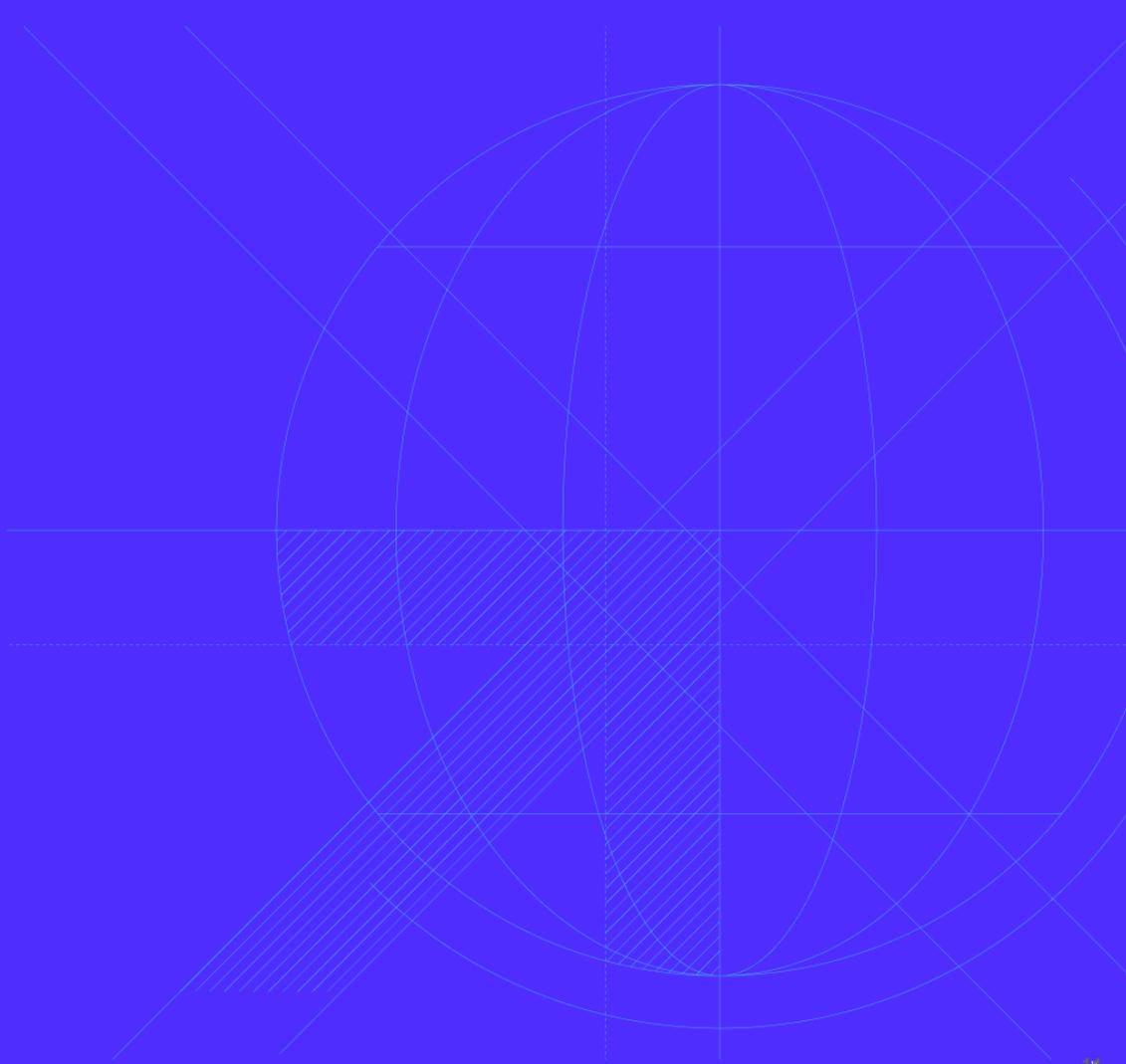
	2026年								
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
応募者募集		▶							
選考				▶					
実施期間							▶ プログラム 実施 ✈ UK派遣		

◆求められるコミットメント

参加者は3週間にわたり、ロンドンで行われるセッションに**対面**で参加することが求められます。

About Program Provider

運営体制



4. Program Provider | Imperial College London

名称

Imperial College London Enterprise Lab

概要

ICLは、ロンドンを拠点とする世界屈指の理工系総合大学。教育・研究・産業連携の全てで高い評価を受け、世界ランキングでも常にトップクラスに位置しています。また、Enterprise Labは、Imperial College 内の起業・イノベーション支援組織です。

ミッション
と特徴

先端教育と研究を通じて知識を創出し、企業や社会と協働して現実世界の課題を解決すること。研究・教育・産学連携は一体のミッションと位置づけられています。特にEnterprise Labは、起業家マインド、スキル、ネットワークを育成すること。特にアイデアを実用的なプロジェクトやビジネスへと進める支援を目的としています。

実績

- ・214社以上のスタートアップ創出支援（過去5年）
- ・上記スタートアップは総額 £500M（5億ポンド）以上の投資を獲得



4. Program Provider | ICL - チームの紹介



Hiten Thakrar

Imperial College London の 8.44 百万ポンド規模の MedTech SuperConnector プログラムを統括。アカデミアと商業イノベーションの橋渡しを担当

ロンドンにおける大規模コワーキングスペースの立ち上げ、教育プラットフォームのスケール拡大、デジタルトレーニング企業の創業・成功といった実績を持つ。現在は 12.5 百万ポンド規模の Imperial SuperConnector イニシアチブを主導し、大学研究を実行可能な事業へと転換することを専門とするとともに、起業エコシステム構築に関する知見を提供。



Alyssa Gilbert

Grantham Institute for Climate Change and the Environment にてイノベーション担当ディレクターを務め、気候科学・気候政策の知見を実践的なソリューションへと転換する取り組みを主導しています。科学コミュニケーション、事業開発、環境コンサルティング、気候政策の分野に精通し、エネルギー、排出量取引制度 (ETS)、気候ファイナンス、気候適応などの専門知識を活かしてアールステージのイノベーターを支援しています。市場投入準備性評価の実務経験を持ち、カーボン市場からネイチャー・ベースド・ソリューションまで幅広い領域をカバー。気候政策や規制、商業化の複雑な環境を乗り越えるためのメンタリングを行っています。



Andy Ayim

国際的に評価されるリーダーシップ・アドバイザーであり、起業家、職場における充足感をテーマとするオピニオンリーダー。サンフランシスコおよびシリコンバレーで世界有数の VC 投資家と協働した経験を通じて、投資家視点を持つ。

南アフリカでの経験により、グローバルな人材、チーム、文化に対する深い理解を有する。



Tim McSweeney

テクノロジー、ビジネス、クリエイティビティの間をつなぐ戦略アドバイザー。

ビジネスデザイン・エージェンシーのディレクターとして、起業家、企業、投資家がイノベーションとテクノロジーの複雑な領域を乗り越える支援を行っている。20 年以上にわたるエクイティ投資およびイノベーション実装の経験を活かし、新興技術やアールステージの機会を特定・理解し、価値創出につなげる支援を行っている。

4. Program Provider | 運営体制と知的財産・守秘義務に関する基本方針



本プログラムは、ICLと東大IPC・博報堂により運営されます。
参加者が安心してプログラムに専念できる環境を担保するため、知財や守秘義務についても下記の通り明確にしております。

運営体制

IMPERIAL

現地プログラム運営 / 講義・ワークショップ /
現地でのネットワーキング支援



・HAKUHODO・

参加者募集・選考、国内エコシステム関係者との
接続支援、事務局等

知的財産・守秘義務に関する基本方針



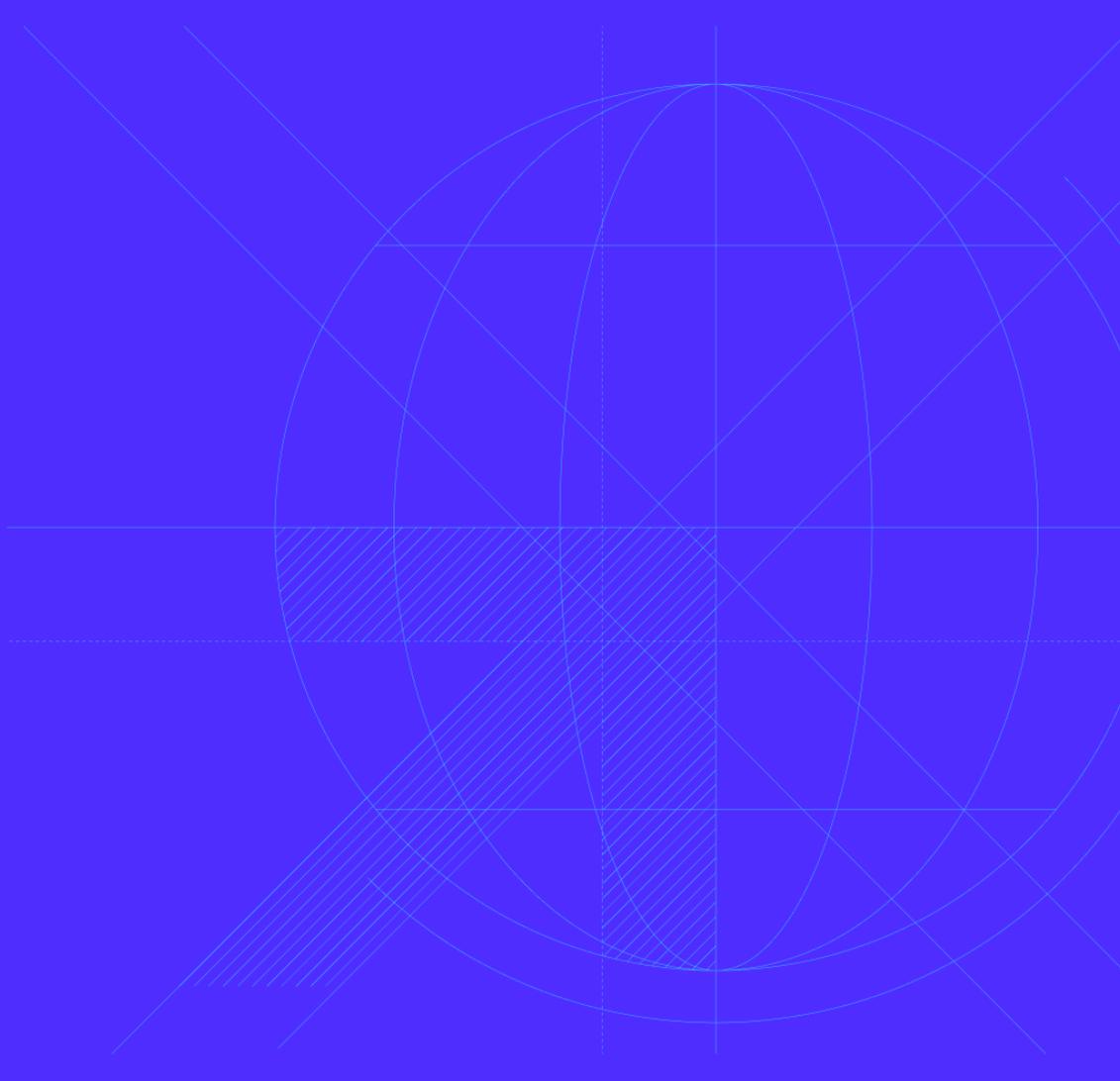
東大IPCと参加者間で守秘義務契約(NDA)
を締結



本プログラムを通じて創出された成果物
(事業計画、ピッチ資料等)の所有権はす
べて参加者本人に帰属
(ただし、東大IPC、博報堂及びICLにも
資料等の閲覧等の権限が付与されます)

About Program Entry

応募要件・審査基準



応募要件

1～6のすべての要件を満たすこと

- A) 博士後期課程在籍者、アカデミア所属の研究者（ポスドク、教職員等）、または大学発技術を活用するスタートアップの創業者・CXO

*応募者自身のIPを活用する、または研究室のIPの活用を許可されている限りにおいては、上記以外の属性も可能。

- A) 技術の事業化・ライセンス展開を検討中で、少なくともPoC（概念実証）段階に達していること
B) 会社設立済みの場合、エクイティ調達（J-KISS、SAFE等を含む）を未実施であること
C) 英語で円滑なコミュニケーションが可能なこと
D) ロンドンでの全日程に対面参加できること
E) 日本国内の重要技術の国外流出につながる、もしくはその懸念のある活動等に参画及び関与しないことを誓約することができること

審査基準

エントリーフォーム・インタビューを基に、ICL/東大IPCによる審査を行います。なお、選考についてのお問い合わせは一切お答えできません。

技術：技術の商業化可能性、開発段階、コスト、革新性を総合的に評価

市場機会：市場規模・ニーズ・アクセス性・競争環境から事業機会の大きさを評価

実行力・チーム力：応募者およびチームの専門性・実績・スキルの補完性を評価

参加動機：プログラムへの参加意欲と学習・成長へのコミットメントを評価

プログラム価値：参加による個人および技術開発への具体的な価値・成長可能性を評価

支給内容

参加者に対しては、事務局より以下の費用を支給いたします。

3週間現地集中プログラムの渡航費・滞在費（※1）

※1：上限あり。加えて以下の経費は対象外。また渡航費・滞在費は、予め対象者自らが取得したものについて、領収書及び各種証票（採択時に支給するマニュアルに清算方法を記載予定）及び請求書を受領後、当月締め翌月末払いにて事務局より清算払い。

- 1 エコノミークラス以上のクラスに搭乗するために要する追加費
（電車、船等の場合も、原則最も低いクラスの移動費のみが対象）
- 1 滞在時の飲食費・懇親・遊興関連費
- 2 上限を超過した渡航費・滞在費
- 3 本プログラム参加に直接的に必要と判断できない費用
- 4 対象者本人以外の渡航費・滞在費や上記1～4に該当する費用

5. ENTRY | エントリー方法



◆提出資料（以下に関する情報入力およびプレゼンテーション動画の提出）

✓ 研究・技術概要（PoCの状況含む）

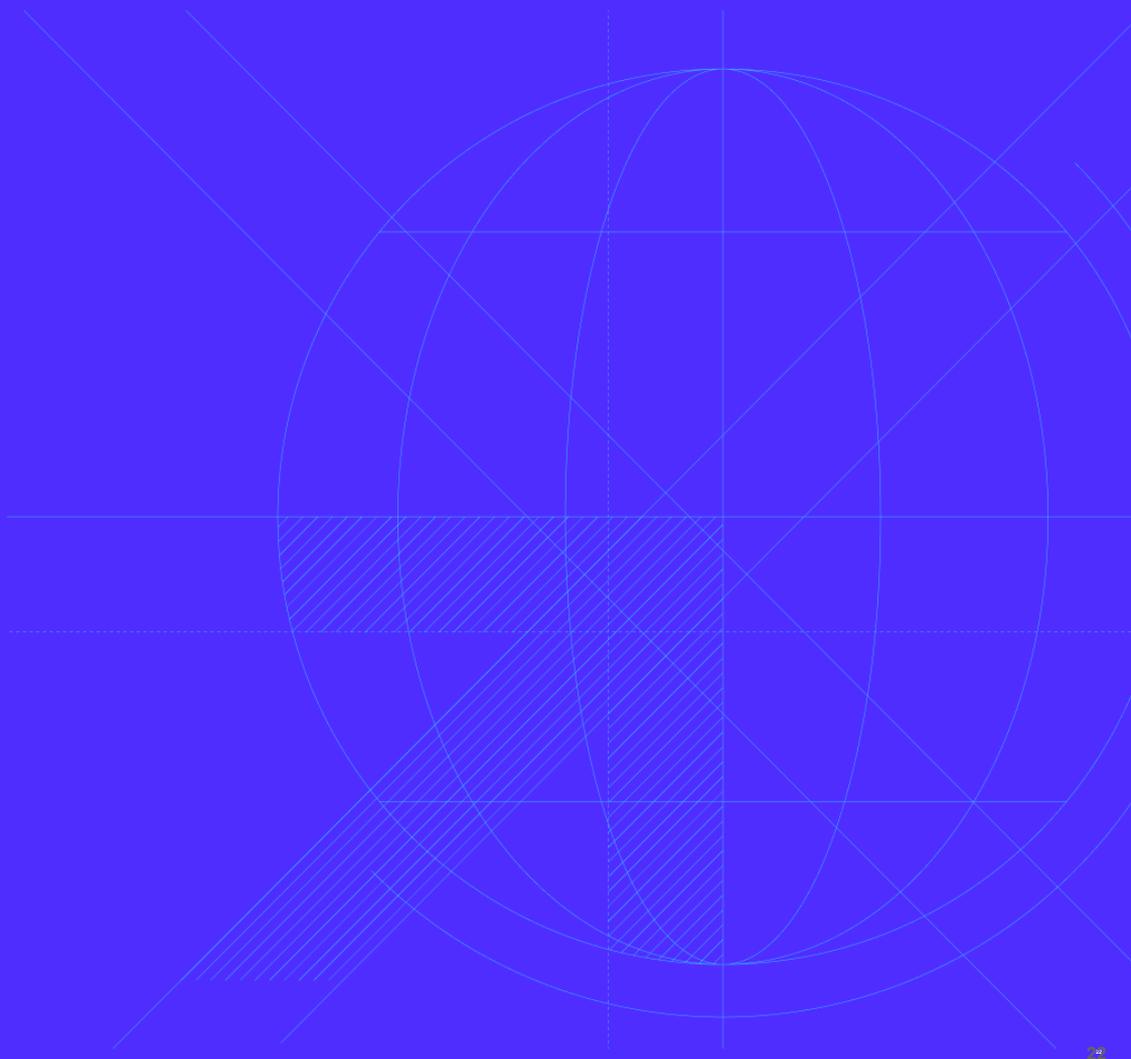
✓ 資金調達状況

✓ 想定用途・展開（商業化 / ライセンス）

✓ チーム

Frequently Asked Questions

FAQ



6. FAQ

Q このプログラムは、他のアクセラレーションと何が違うのですか？

A 「ベイズ型アントレプレナーシップ」の習得が最大の特徴です。ロンドンのエコシステム「White City」に滞在し、科学的アプローチで不確実性をリスクとして管理・低減するICL独自の手法を学びます。

Q まだ起業前（研究段階）ですが、応募は可能でしょうか？

A はい、可能です。技術のPoC（概念実証）段階に達していれば、法人化前でも応募いただけます。研究成果を欧州市場で試し、事業化の道筋をつける意欲ある方を求めています。

Q 期間中、研究室の仕事や自社の業務を並行して行えますか？

A 原則として不可能です。平日日中のワークショップへの対面参加が義務付けられており、課題への取り組みも含め、3週間はロンドンでのプログラムにフルコミットしていただく必要があります。

Q 成果物の権利（知財）はどうなりますか？

A 成果物は参加者本人に帰属します。安心してプログラムに専念できるよう、権利関係はクリアにされています。ただし、運営上の利用目的で一部許諾をいただく場合があります。

Q プログラム期間外のフォローアップはありますか？

A 公式カリキュラムには含まれませんが、参加者の状況や意向を鑑みて事後サポートは可能な場合があります。

EOF